

ウェアラブルカメラの運用について

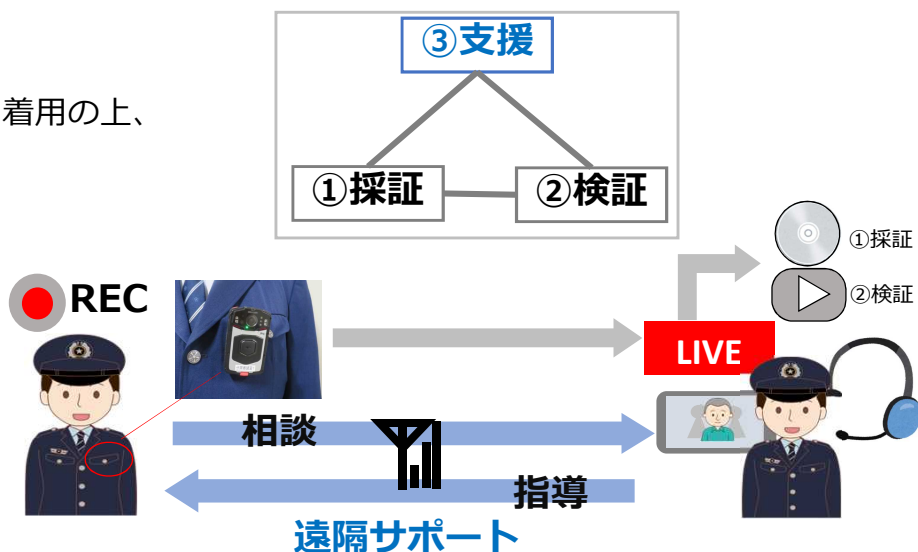
〈今後の展望〉

使用方法

相互の通信機能を有するウェアラブルカメラ着用の上、
処遇現場のリアルタイムの映像を送信する。

効果

処遇現場の映像保存（①採証）
処遇現場の映像確認（②検証）に加え、
リアルタイムの映像から、
遠隔サポート体制の構築（③支援）
が可能になる。



将来像

上級官庁



矯正管区や矯正局での
リアルタイム映像確認

映像解析技術等



映像解析技術等を
活用した異常検知

固定カメラ



居室棟や居室内の固定カメラ
の映像も異常検知等を可能に

〈現在の運用〉

例①：A刑務所の例

目的

被収容者の動静等の確実な記録
職員の不適正処遇防止

使用方法

昼夜間居室棟の処遇現場の映像を記録し（①採証）、
後に映像を確認（②検証）。

課題

通信機能がなく、瞬時に異常を発見できないため、
リアルタイムで現場職員をサポートできない。

（巡回勤務時の使用状況）



例②：B刑務所の例

目的

女性職員の職域拡大推進、緊急事態対応

使用方法

心理技官等の女性職員が、
被収容者と面接及び調査等を行う際の映像を
リアルタイムで送信（①採証、②検証等も可）。

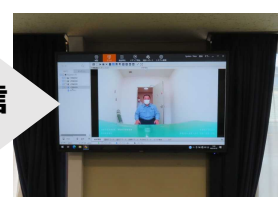
課題

通信機能は有るが、使用箇所が限定され、
昼夜間居室棟での運用はできていない。

（面接時の使用状況）



（映像の受信状況）



配信

